

【公益社団法人 小樽法人会会長賞】

ふるさと納税で小樽を住みやすい町に

小樽市立菁園中学校 三年

榊原 芽優

日本の少子高齢化が進む中、小樽も人口約十一万人に対し六十五歳以上が四十一パーセントと道内人口上位都市の中で一番高齢化率が高いそうです。

そして子供が少なく、私に通った小学校は閉校し、中学校ではクラスが一つ減りました。

将来働く私たちの人数が少ないので市民の税収が少なくなってさらに、高齢者の介護や医療費が増え続けるから小樽の財政が悪化してしまいます。他の地域から若い人が移住して働いてくれたら良いと思いますが、父や母が小樽は昔より若い人が楽しめるような施設がほとんどなく、若い人が働きたいと思うような仕事も少ないと言っています。たしかに私も友達と遊びに行く場所が少ないと思います。札幌に行きたいという友達もいるので、将来札幌に引っ越してしまう人も多くなる気がします。

そこで私は小樽の財政悪化を防ぐためにふるさと納税を通して小樽の魅力をアピールしたらどうかと思いました。

小樽のふるさと納税では、平成二十六年から寄附金の使い道を十三種類から指定して寄附できるようになりました。そのうち七項目が「小樽ファンが支えるまちづくり」に寄附してもらえます。

例えば、小樽市公会堂の能楽堂の安全整備や、旧北海製缶第三倉庫への保全活動などです。これらは小樽市民にとっても魅力のあるものです。私は、歴史的建造物について観光案内する時に、小樽の税収を増やすためにふるさと納税についても説明して、観光客でふるさと納税による寄附をしてもらえば良いと思います。

また返礼品について「さとふる」の人気ランキングを見てみました。内容は意外で、小樽には有名はお菓子屋海鮮物、ガラス工芸品があるのに、ランクインしているものが見当たりませんでした。ふるさと納税による寄附金が増えれば観光地が更に整備され、観光客が増え、観光業の利益が上がれば納税額も増えます。小樽の返礼品をもっと選んでもらえるようにサイトの写真などを興味をわくようにする、寄附金額をどんな人でも気軽にできる値段をそろえるなど、工夫をしたら良いと思いました。

観光業がもつと盛んになれば従業員も必要になって、海外からの移住者も増えるかもしれません。若い人が小樽に住みながら働けば市民税もたくさん集まり住みやすい町になると思います。

将来私が就職するところには、小樽の状況も変わると思いますが、みんなが幸せに暮らし続けられるよう、これからも小樽のためにどうすれば安定した税収が得られるか時々考えてみようと思います。